

令和6年度

石井中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 創意工夫された楽しくわかる授業づくり
- 家庭学習習慣の定着

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------------------|---|
| 学力向上推進員
(3年学年主任) | 委員 教頭:
教務主任:
学年主任:(1年)
教科主任:
(2年) |
|---------------------|---|

校長

○次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や生徒・教員へのアンケート等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的事項を理解しようと努める生徒が多い ●家庭学習の習慣化、充実を図ることが大きな課題である また、テスト後の復習等の習慣化も図れていない	・授業に目的意識をもって臨み、学んだことを習熟している ・毎日、家庭学習の時間を確保し、予習復習が習慣化している	・授業の復習となる課題や反復を伴うプリント・ワークを課し、それらの確認を定期的に行う ・テスト後の復習の重要性を理解させ、自主ノート等に復習することを習慣化させる	・これまでの取り組みを継続していく	・88%の教員が定期的にノートやワーク等を点検し、生徒の学習状況の把握を行った ・家庭学習が1時間未満の生徒が43%と多く、十分な時間の確保には至っていない	・家庭学習の習慣化、充実を図ることが大きな課題である ・38%の生徒が、テスト後の復習を行っていない。習慣化させている教員も67%と昨年を下回り、引き続き、その重要性を理解させ習慣化を図っていく

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話し合い活動の良さを認識している生徒、考え方や解き方、根拠を問う問題に意欲的に取り組もうとする生徒が多い ●自分の考えや意見を表現することに消極的な生徒が多い	・言語能力を高めていく 表現が工夫できる 理由が述べられる 思考の過程を説明できる	・話し合い活動を積極的に設定する ・考え方や解き方、根拠を問う問題をテストや課題、制作等に取り入れる ・教師の授業力向上を図るため、授業力向上研修(レッスンウィーク)を設ける	・これまでの取り組みを継続していく	・考え方や解き方、根拠を問う問題をテストや課題、制作等に取り入れている教員は92%である ・授業中の発表に対して消極的な生徒が31%と昨年度より増加した	・話し合い活動の良さを実感できている生徒は85%と昨年度を大きく上回り、引き続き活動を行っていく ・考え方や解き方、根拠を問う問題に意欲的に取り組む生徒も86%と多く、今後も発展学習の充実も図る

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○始業時の着席や授業準備ができている生徒は多い ●自ら疑問や課題をもって授業に臨む生徒は少ない	・始業時の準備を徹底し、授業中のルールを守り、周りとともに学び合える ・自ら疑問や課題をもって、主体的に取り組む	・毎時間、「目標・ふり返り」を提示し、計画的な指導を展開する ・コンピュータ等(ICT)の効果的な活用を図る	・これまでの取り組みを継続していく	・98%の生徒が、始業時の着席と授業準備ができていると答えた。 ・84%の生徒がタブレットコンピュータの活用が学習に役立つと答えた。また効果的な活用を図った教員は75%(昨年度64%)と昨年度を上回った	・今後も、生徒自らが疑問や課題をもって、主体的に取り組む場面を積極的に設定する ・引き続き、タブレットコンピュータの効果的な活用を図っていく

令和6年度 学力向上ロードマップ

